

都市と交通に関する課題と解決策について

—他の班の発表を踏まえた考察と自分の意見—

C1251001 小島瑠夏

今回の「都市と交通」をテーマとした発表を通して、都市が抱える交通の問題は、交通事故の多さや公共機関の不便さといった目に見える課題だけでなく、人々の生活環境や意識、高齢化などの社会的背景と深く関わっていると感じた。他の班の発表を聞いて自分たちの班にはなかった意見を整理し、それを自分たちの班の考えと組み合わせながら、都市と交通の課題をどのように解決していきたいかについて考えたことを述べる。

まず、他の班の発表で印象に残ったのは、「事故ゼロの街」を目指すという考えである。自分たちの班では、交通事故の件数や高齢者事故の増加といった点に注目していたが、他班では「事故は一度起きたときの影響が非常に大きい」という視点が示されていた。特に死亡事故がゼロではない現状を考えると、交通問題は数字だけで評価するのではなく、人の命を守るという視点が重要であると感じた。

また、交差点や横断歩道、カーブなどの危険な場所に、光や色、音を使って注意を促す取り組みも印象に残った。文字を読まなくても直感的に危機を理解できるため、高齢者や子ども、外国人など、さまざまな人にとって分かりやすい仕組みであると感じた。このようなユニバーサルデザインの考え方は、自分たちの班ではあまり深く考えられていなかった視点であり、事故を未然に防ぐためにはとても重要だと思った。

さらに別の班の発表では、免許返納の問題を「交通の問題」だけでなく、「生活や心理、社会全体の問題」として捉えていた点が印象的だった。高齢者にとって免許は移動手段であると同時に、自立や自由の象徴である。そのため、返納した方が良いとわかっているにもかかわらず、生活が成り立たなくなる不安や、家族や周囲に迷惑をかけたくないという気持ちから、返納に踏み切れない人が多いという説明には共感した。免許返納を個人の判断や覚悟に任せるのではなく、返納後の生活まで考えた支援が必要であると感じた。

一方で、自分たちの班では、免許返納が進まない背景として、地方を中心とした自動車依存の生活や、公共交通の利便性の低さ、運転手不足などを課題として挙げた。また、MaaS（次世代交通）を導入することで、移動の予約や支払いを一つにまとめ、誰でも使いやすい交通手段を整える必要があるという意見も出た。これらの意見は、他の班が指摘していた「生活を支える視点」と組み合わせることで、より現実的な解決策になると感じた。

これらの発表を通して、都市と交通の課題を解決するためには、道路や交通手段といったハード面の整備だけでなく、人の気持ちや生活に寄り添ったソフト面の支援も同時に進める必要があると考えた。光や音を活用した分かりやすい道路環境を整えることで事故を減らし、公共交通や地域の支援体制を充実させることで、免許返納後も安心して暮らせる社会につながると思う。

免許返納は「自由を失う選択」ではなく、「安心して生活を続けるための前向きな選択」として受け止められる社会が望ましいと感じた。そのためには、交通政策だけでなく、地域

や人とのつながりを含めた取り組みが重要である。今回の発表を通して学んだ多様な視点を踏まえ、誰もが安心して移動でき、住み続けたいと思える都市づくりについて、今後も考えていきたい。

さらに今回の発表を通して感じたのは、都市と交通の問題は、特定の世代だけの問題ではなく、将来的には自分自身にも関わってくる課題であるという点である。現在は自動車を自由に使える世代であっても、年齢を重ねることで運転に不安を感じ、免許返納を考える立場になる可能性がある。そのため、今の高齢者の交通問題を「他人事」として捉えるのではなく、将来の自分たちの姿として考えることが重要だと感じた。

また、公共交通の整備についても、単に本数を増やし路線を増やすだけでは十分ではないと考えた。高齢者や交通に不安を感じている人にとっては、「分かりやすさ」や「使いやすさ」が特に重要である。時刻表や乗り換えが複雑であったり、バス停までの距離が遠いと、利用そのものをためらってしまう場合もある。そのため MaaS のように情報を一つにまとめ、簡単な操作で利用できる仕組みは、今後ますます必要になると感じた。

さらに、地域ごとの特徴に応じた交通対策も重要であると考えた。都市部と地方では、交通環境や生活スタイルが大きく異なるため、全国一律の対策では十分な効果が得られない場合がある。例えば、地方ではデマンド型交通や地域ボランティアによる移動支援など、地域に合った柔軟な取り組みを進めることが求められると思った。このような取り組みは、高齢者の外出機会を増やし、孤立の防止にもつながると考えられる。

加えて、交通問題の解決には、行政だけではなく、地域の住民一人ひとりの意識も重要であると感じた。道路の安全対策や交通制度が整っていても、利用する側がルールやマナーを守らなければ事故はなくなる。今回の発表を通して、交通の問題は「誰かが解決してくれるもの」ではなく、社会全体で支え合いながら考えていく必要がある課題であると感じた。

以上のことから、都市と交通の課題を解決するためには、安全な道路環境の整備、公共交通の充実、生活や心理に配慮した支援、そして地域や個人の意識の向上を組み合わせることで進めていくことが重要だと考える。

今後は日常生活の中でも交通や都市のあり方に目を向け、自分なりに考えを深めていきたい。